

構成員意見（第1回懇話会）について

○経営分析（水道事業）

- ①「今後の方向性」における指標の評価について（経営診断書 P.19）
 - ・ 指標の変動について、基本的には水需要の減少と施設の老朽化が共通のトレンドとなっているが、複数の指標に共通する変動要因が生じた場合における、各指標値への影響度を整理する必要があるのではないか。【北詰構成員】
- ②「収支見通しの比較分析」について（経営診断書 P.9）
 - ・ 今後の課題として、人口減少が進んでいくことや水需要の減少は避けられない状況であり、現状を継続しながら料金を改定して対応していただければ厳しくなってくる。今後の検討の中では、十分な経営努力することが、利用者から問われるところであるため、中長期で戦略的に行っていくことが必要と考える。【畑山構成員】
- ③「収支見通しによる分析」における企業債残高について（経営診断書 P.7~8）
 - ・ 企業債の積極的な借入など攻めの方向性で進むときには、その後の見通しについても適切にマネジメントされていることが重要であるため、計画的な取組を進めていただきたい。【川原構成員】

○経営分析（下水道事業）

- ①「負荷率」について（経営診断書 P.33）
 - ・ 年度ごとに分母・分子の両方が変化するため、単純な増減だけで評価できない。指標の増減要因についても適切に評価されたい。【畑山構成員】
- ②「職員数に対する事業規模」について（経営診断書 P.33）
 - ・ 効率性の指標を新たに導入する等、経営管理に努めている姿勢は評価したい。【川原構成員】
 - ・ 支払利息や人件費の増減が指標値に与える影響が分かりづらい。【川原構成員】
 - ・ 指標の変動は気付きのためのものであり、それを深掘りする所までがセットである。指標の増減だけでなく、なぜ増減したかの要因についても分析していただきたい。【北詰構成員】

○計画評価

政策 01

・

政策 02

- ① おおむね経営戦略の目標に向かって推移していることについては評価したい。【畑山構成員】
- ② 能登半島地震を踏まえた取組について（経営診断書 P.50）
 - ・「上下一体となった復旧の取組」については、情報共有に留まらず、実際に行動を起こす時の資源や人の配分を具体的にシミュレーションしながら、実効性のある上下一体の復旧体制の構築に取り組んでいただきたい。【北詰構成員】
 - ・今後に向けて、能登半島地震の被災地に支援に行かれている方にフィードバックしてもらい、今後の体制強化に活かしていただきたい。【畑山構成員】

政策 03

- ① 不適切事案・ハラスメント事案等への対応について（経営診断書 P.54~57）
 - ・本政策にかかる施策評価を「B」としているが、今後の進捗次第ではすぐさま「C」になるリスクを含んでいるものである。今回の事案に対する対応策を1つ1つ因数分解して、それが着実に行われているか確認しながら進めていただきたい。【北詰構成員】
 - ・委託業務のあり方等については、次期契約に向けて抜根的な見直しが必要と考える。今回の不適切な事案を受け、内部で検討を進める事に加え、市民の理解を得る形で進めるためにも適切なタイミングで進捗報告していただきたい。【川原構成員】
- ② DX 推進について（経営診断書 P.54）
 - ・新技術を活用するイメージを明確に持っておいいただきたい。期待に添わない技術を導入するとコストばかりかかるため、求める技術を明確にして動向を追っていくことで、活用を検討していただきたい。【畑山構成員】

政策 04

- ① KGI「コールセンターの問合せ件数」について（経営診断書 P.39）
 - ・本 KGI の増加については、内容を踏まえた分析が必要である。決して数が増えることが悪いわけではないが、問合せの内容が深刻化している事案や、同様の内容が違う人から複数回あるような事案については、見極めて対応していただきたい。【畑山構成員】
- ② KPI「広報広聴の満足度」について（経営診断書 P.60）
 - ・本指標について、一定期間の推移の中で低い水準を維持できるようであれば、今後の目標値の見直しについても検討していただきたい。【畑山構成員】